



♪西箕輪中学校の吉瀬幸雄先生が授業を公開してくださいました♪

11月17日(火)、西箕輪中学校の吉瀬幸雄先生が授業を公開してくださいました。その様子をご紹介します。授業を公開くださり、更には指導案やお写真を提供してくださいました吉瀬先生、資料を提供してくださいました研究部の田中祐子先生、そして感想を引用させてくださった参観者の先生方、本当にありがとうございました。



*以下、吉瀬先生が提供してくださいました指導案を抜粋させていただきます。

【音楽科研究テーマ】

生徒一人ひとりが、楽曲についての歴史的背景を知ったり、楽曲の構成や特徴を発見したりすることによって、自分たちが感じ取ったことを仲間と伝えあったり発表することを通して、楽曲に対しての想いを深めていこうとするための鑑賞の指導はどうあったらよいか？

◎題材名 「声部の役割を理解しよう②」 (鑑賞：全2時間扱い)

教材名 「フーガ短調」

(J・S バッハ 作曲)

「目覚めよ、と呼ぶ声が聴こえ」

(//)



◎題材の目標

- (1) 「フーガ短調」「目覚めよ、と呼ぶ声あり」の2曲を、主旋律の動きに着目して鑑賞し、主旋律の動きの変化にともなって生じる曲想の変化について感じ取り、そのことについて、音楽的要素と関わらせて自分の考えをまとめ、発表することができる。 【ア…(ア) 思考力・判断力・表現力】
- (2) 主旋律の動きの変化にともなって生じる、伴奏部分の変化を聞き取り、そのことが構成や音楽の雰囲気の変化を生み出すことが理解できる。 【イ…(ア) (イ) 知識】
- (3) 音楽祭で合唱した曲と比較して鑑賞することを通して、多声的な音の重なり方の特徴について理解することができる。 【イ…(イ) 知識】

*本題材で扱う「音楽を形づくっている要素」…音色、旋律、テクスチャ、構成

◎本題材で願う姿

歌唱の時間の中だけではなく、鑑賞の時間の中でも音楽の仕組みや構成を意識して聴かせることを通して、楽曲そのものの良さを感じ取り、それをもとに、自分で考えて工夫をしながら表現活動に向かうための素地づくりになればと考えた。

J・Sバッハが作ったオルガンの曲の中でも、「フーガト短調」や「目覚めよ、と呼ぶ声あり」の2曲は、主旋律の動きがとらえやすく、主旋律の動きに伴う構成や曲想の変化を感じ取りやすいであろうと捉えている。主旋律の動きに着目して聴かせたり、伴奏部分の動きの変化を感じ取らせたりすることにより、構成やその変化に伴う雰囲気の違いを感じ取らせることを通して、表現活動に主体的に取り組み自ら工夫しながら表現することにつなげていっていただければと願い、本題材を設定した。



◎教材の価値

教材	音楽的要素をもとにした特徴	教材の持つ価値
「フーガト短調BWV 578」 (J・Sバッハ 曲)	<ul style="list-style-type: none"> ・主題となる旋律が、音の高さを変えたり転調したりしながら、各声部繰り返して現れ、それに伴って声部が増えたり絡み合ったりしながら進んでいく。 ・主題となる旋律はト短調ではじまり、二短調、ト短調と繰り返しながら進んでいく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音程を変えたり、転調をしたりするが、同じ形の主題が繰り返される。そのことによって生まれる、構成や雰囲気の変化を感じ取りやすいと思われる。
「目覚めよ、と呼ぶ声あり BWV645」 (J・Sバッハ 曲)	<ul style="list-style-type: none"> ・主題と伴奏の間に、違う旋律が絡み合ってきて、タイトルの「目覚めよ」と呼ぶ声を想像させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・声部の重なり方が単純で、多声的な重なり方をつかみやすい。 ・途中から入ってくる旋律が何を伝えようとしているのか、想像を膨らめやすい。
「明日へ」 (富岡博志詩・曲) ※生徒たちが、音楽祭で取り上げた曲	<ul style="list-style-type: none"> ・「ソプラノ・アルト」と「テナー」の掛け合いの部分はあるものの、2声もしくは3声が同じ譜割りで動くことが多く、和声的な音の重なりを感じ取りやすいであろうと思われる曲である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業学級が音楽祭のクラス合唱で取り上げた曲であるが、本題材で扱う「フーガト短調」のような多声的に重なる曲と比較して、音の重なり方の違いを聞き取りやすい曲であると捉えている。

本時案

◎本時の主眼

「フーガト短調」を主旋律(主題)に着目して聴き、最初に出てくる主旋律が高さや音色・調子を変化させて動くことを感じ取ったり、主旋律以外に着目して聴き、伴奏部分の動きや音の変化を感じ取ったりすることを通して、多声的な音の重なり方の特徴を感じ取ろうとすることができる。

◎本時の位置 2時間扱いの1時間目

次時・・・「目覚めよ、と呼ぶ声があり」を鑑賞し、多声的な重なり方の特徴を感じ取るとともに、作曲家バッハの生い立ちや生きていた頃の背景、フーガという技法を確立させたことを知り、音の重なり方の変化によって生まれる雰囲気の変化を感じ取りながら、改めて「フーガト短調」を鑑賞する。



◎指導上の留意点

- ・主旋律以外の動きに着目させる時には、その動きを聴き取ることが難しいことも予想される。その場合は、教師が作成した主旋律以外の動きのみの音源を聴かせ、主旋律以外の動きに注目させるようにしたい。
- ・主旋律に着目させる場合は、一緒に歌って、そのメロディを意識付けさせるようにして鑑賞させるようにしたい。

◎展開

段階	学習活動	予想される生徒の反応	指導・評価 手立て 評価	時間
導入	<p>学習問題 パイプオルガンという楽器について知るとともに、クラス合唱で歌った「明日へ」と比べて鑑賞しながら、音の重なり方の特徴を感じ取る。</p> <p>1 パイプオルガンの構造や特徴、音の出し方について知る</p>	<p>○「パイプオルガンで演奏される曲を聴いてみようと思います。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パイプオルガンは初めてみる楽器だなあ。 ・鍵盤がいくつもあるんだ。 ・音が変わえられるんだなあ。 ・教会で見たことがある。 ・怪しい音がするんだなあ。どこかで聴いたことがあるような… <p>{学習課題} 音の重なり方にしながら、鑑賞しよう。</p>	<p>パイプオルガンの曲を鑑賞することを告げ、仕組みや、音の出し方や作り方を、DVDを見ながら確認し、プリントへまとめさせる。</p>	6
展開	<p>2 「フーガ短調」を主旋律に着目して鑑賞し主旋律の動きと主旋律の動きの変化を感じ取る</p>	<p>○「一番目立つ主旋律をみんなで歌ってみよう。曲全体で何回出てくるか数えてみよう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8回、9回、10回かな ・(途中で転調するところは) これそうなのかな? ・(途中で転調するところも) リズムが一緒だからそうなのかな? <p>○「一番最初の主旋律を基準に、どのように変化していくかを、プリントに書いていってみよう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音がだんだん低くなっていくような気がする。 ・真ん中の音域で演奏されている部分が出てくるな。 ・調子が変わるな ・音の高低は変わるけど、交互に演奏されるような感じがするな。 ・聴いていても、あまり違いがわからないよ。 	<p>*主旋律を全員で歌って確認し、曲全体の中で何回出てくるかを数えながら聴かせる。回数を確認した後、一番最初の主題を基準に、どのように変化していくかを聴き取らせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聴かせる前に、「明日へ」の冒頭の部分を歌い、次の点について確認をする。 <ul style="list-style-type: none"> ア 音の高低の変化 イ 調子が変わること (転調) ウ 音色の変化を言葉として押さえる <p>音の高低が変わることも聴き取ることが難しい生徒がいることが予想される。一番最初に出てくる主旋律を、教師が高さを変えたりして一緒に歌うことを通して意識させるようにしたい。</p>	17

	<p>3 主旋律以外の部分に着目して聴き、主旋律の動きと関わらせながら、音の重なり方や動きの変化や感じ取る</p>	<p>○「今度は、伴奏部分の動きに注目して聴いてみようと思います。主旋律の動き変化と関わらせながら聴いてみよう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音の重なり方がだんだん大きくなっていくような気がした。 ・何かよくわからないけど、雰囲気が変わっているように感じるんだけどな ・細かい音符が多いなと思った。 ・細かい音符が出てきたり、ひっこんだりしているなと思った。 ・細かい音符が、いろんな高さで出てくるな。 ・ちょっと難しくて、なかなか聴き取れないや。 	<p>*主旋律以外の部分に注目して、動きの変化があるかどうかを注目しながら聴かせる。伴奏部分で感じ取った変化をプリントにメモさせながら聴かせる。</p> <p>パイプオルガンでの演奏から、主旋律以外の動きを聴き取ることが難しいことが予想される。</p> <p>教師が音楽ソフトで作った、主旋律を除いた音源を聴かせ、変化があったかどうかを一緒に確認して、伴奏部分の動きを感じ取らせそれから全体を聴かせるようにしたい。</p>	15
	<p>4 クラス合唱で歌った「明日へ」と比べて音の重なり方についての特徴をまとめ、気づいたことについて発表する</p>	<p>○みんなが、音楽祭で歌った「明日へ」という曲の音の重なり方と比べて気づいたことをプリントにまとめてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「明日へ」は3つのパートが一緒に動いている感じがするけど、オルガンの曲は、追っかけたり、追っかけられたりしている感じがする。 ・「明日へ」は音が重なっているなあって感じがするけど、オルガンの曲は、主旋律に絡み合ってくるっていう感じがする。 ・「明日へ」は合わせやすいなって感じるけど、オルガンの曲はパートがバラバラって感じがするからすごく合わせにくいなあと感じた 	<p>クラス合唱で歌った「明日へ」と音の重なり方の違いについて自分が気づいたことをプリントにまとめさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「明日へ」と「オルガンの曲」では重なり方が同じと感じたか、違うと感じたかを拳手をさせるなどして確認する。 ・その上で、何が違うのかを、項目的にでもよいので気づいたことや、発見したことをプリントにまとめさせる。違いを感じとることが難しいと感じる生徒がいることも予想される。その場合は、和声的に重ねて作った音源と比較して鑑賞しその違いを感じ取らせるようにする。 <p>{評価 「明日へ」と比べて鑑賞することで、多声的な音の重なり方の特徴を感じ取ることができたか？ 発言や学習カードから評価する。</p>	8

終末	5 この時間を振り返って学習カードにまとめる	○1時間鑑賞して、音の重なり方について自分が感じ取ったことや発見したことを学習カードにまとめてみよう。 <ul style="list-style-type: none"> 主旋律にいろんな動きが絡み合っている曲が作られているんだな。 主旋律が欠けるだけで、雰囲気がいぶん変わるんだなと思った。 最初は、同じような感じに聞こえていたけど、注意して聴いてみると、音楽の雰囲気の違いを出しているんだな。 	*学習カードに、1時間の振り返りを書かせる時に、音の重なり方について、自分で気が付いたことや発見したことなどを、まとめさせる。 *近くで話し合ったり、全体の場で発表させたりしながら1時間で感じ取ったことや発見したことを共有させる。	4
----	------------------------	---	--	---

【参観された先生方のご感想】

*授業後お寄せくださった感想記入用紙から、一部抜粋して引用させていただきます。

伊那小学校 櫻井由佳先生

吉瀬先生が常に子どもの姿からその意識を感じ取り、子どもの意識に沿って授業をされていることをたくさん現場で感じさせていただきました。この曲の主題が曲中に何回出てくるかというところ、子どもたちはとても集中し、指を折りながら曲を聴いていました。この時間子どもたちは、さまざまなことを感じながら曲を聴いていたと思います。曲が終わるとすぐに子どもたちは「何回だった」と意見交換を始めました。そこで先生が、子どもたちの中へ入り、子どもたちの自然な意見交換に耳を傾け、その時間をさえぎらずにいらしたことがとても印象的でした。

赤穂中学校 伊藤優先生

冒頭に歌っていた「明日へ」や授業への取り組みも、まじめでがんばる生徒さんたちだなと思いました。旋律の回数を数えたあと、実際に自分で旋律を歌ってたしかめることは大切なことだなと思いました。

辰野西小学校 塩澤詩乃先生

最初の合唱、ハーモニーもしっかりきまって、バランスもよく、あんな風に歌える中学生すごく素敵ですね。つぶやきや反応も良い中学生だったので、いきなりどちらかの曲を10秒くらい聴かせて、「気づいたこと感じたこと」、初感をつぶやかせ、どうやら旋律が重なっているぞ?と気づき、一声だけ・2声になったところ、長調になるところなど、場面を取り出して比較させてもおもしろいかなと思いました。

高遠中学校 伊藤佳代先生

「明日へ」の合唱、声の響きがよく、とても素敵でした。鑑賞の際の生徒さんのつぶやきも、素直で明るく、そして、的を得たものが多かったと思いました。日頃、パイプオルガンの特徴や音の重なりなど、どう取り組んでいったらよいか難しく感じていましたが、ぜひ参考にさせていただきたいと思います。

西箕輪小学校 小池希美恵先生

音楽に向かう子ども達の姿がよかったです。「聴かせ所」がはっきりしていました。比較として、高い低いはどの子もわかっていたと思います。音色・調子の違いをどう聴かせるかが難しいですね。いい気づきをしている子もいたので、それを音として確認してみたいです。

宮田小学校 田中祐子先生

生徒さんたちの音楽の授業に前向きで、吉瀬先生とのおだやかなやりとりの中進められていく授業に普段から音楽の楽しさを味わってきているのだなあと感じました。主題のききとりで、転調した主題と元の主題を同じ旋律ととらえられる感覚がひとつ難しいと思うのですが、(小学校の教材でも、ファンタールの長調へ転調するところが、全く別の旋律とする子がいます)全体でその部分を確認(聴きとれたら手を挙げるなど)してから主題を数える活動に入ったらどうかと思いました。